

研修だより 39号



附属浜松小中の参観を通して①

小笠原康晃

先日、静岡大学教育学部附属浜松小中学校の研究発表会に参加させていただきました。

研究の理論も、子どもたちの未来を見据えたすごいものになっていました。

研究の方法や成果の出し方など具体的に示されていました。

公開授業ということもあり、どの授業も研究の論理に基づいた授業を実践していました。

授業を参観したときに、授業者の先生がしている「しかけ」がとても印象的でした。

その「しかけ」とは、子どもたちが主体的に学習へ取り組めるように、体験活動や調査活動、学校設備や地域の特性など「今あるものを活かしている」というものでした。

そうすることで、課題が切実感をもった課題となり、「自分事」として捉えることができる課題となっていました。

5年2組の総合的な学習の時間では、自分たちが取り組んだ「バケツを使った稲作」を元に「米作りの魅力を届けるために、自分たちはどうしたらよieldろうか」ということを話し合っていました。

5年1組の家庭科では、グループで自分がした買い物について情報を共有していました。買い物をしたときの視点を語り合うことで、自分とはちがった考えを知ることができていたと思います。

4年1組の算数では、「データの利用」ということで、来年度の自然教室について話し合いをしていました。観音山自然教室で起きたけがのデータから必要な情報を読み取り、どの情報を「しおり」に記載すべきかを話し合っていました。